

## 〈事例報告5〉「対比構造の文章を書こう」（国語総合）

### 1 はじめに

これまで、生徒の言語活動を中心に据えた授業の中で、さまざまな形で記述させた成果物を評価してきた。しかし、非常に有意義な討論を展開した生徒でも、それが記述に反映されないことが多かった。そこで「書くこと」の指導を通して、思考のプロセスを振り返って文章にすることや、自らの主張を正確で効果的に表現する力を養いたい。

### 2 指導目標と評価

#### (1) 身に付けさせたい力（論理的思考に関わる目標）

構成を考え、客観的な根拠に基づいて、自分の考えを文章に書く力。

#### (2) 関係する学習指導要領の指導事項

論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめること。(国語総合B(1)イ)

#### (3) 関係する論理的な思考の活動

必要な情報を抽出し、分析する。(②抽出、分析)

#### (4) 評価規準

関心・意欲・態度	書く能力	知識・理解
本文の構造を利用し、客観的な根拠に基づいて自分の考えを表現しようとしている。	本文の構造を利用し、客観的な根拠に基づいて自分の考えを表現している。	文中の語句の意味を理解し、語彙を豊かにしている。対比構造の組み立てや特徴を理解している。

#### (5) 評価方法と評価基準表

ア 評価方法 作文「私の東西比較論」

イ 評価基準表

観点	A	B	C
自分の考えを論理的に表現することができる。	対比構造にのっとり、客観的で整合性のある根拠を示して自らの考えを述べることができる。	対比構造にのっとり、根拠を示して自らの考えを述べることができる。	根拠をもって自らの考えを述べるができない。または文章が書けない。

### 3 単元の指導計画

#### (1) 言語活動と教材

ア 言語活動

身近な東西の文化を比較し、対比構造を用いて作文する。

イ 教材

「水の東西」山崎正和（東京書籍『精選国語総合』）

#### (2) 単元観・教材観

「水の東西」は日本と西洋の文化を対比し、日本人の感性と日本の文化の特質を述べた文化論である。具体的なものから抽象的なものへの展開、二つのものを対比させながら論を進める二項対立の方法を用いた展開の仕方など、評論文の基礎を学習する上で重要な教材である。評論文を読むことで、

さまざまな視点，思考経路があることに気付き，視野を広げ，思考を豊かにさせたい。また，そこで得た考え方を基に自分なりに作文することで，論理的に思考する経験をさせたい。

### (3) 指導と評価の計画（配当時間5時間）

次／時間	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点	◇評価規準 ◆評価方法 ※努力を要する状況と判断した生徒への支援の手だて
第1次（3時間）	①「水の東西」の内容を読み取り，対比構造を理解する。	①語句の意味を確認しつつ，発問しながら内容を捉える。	◇知識・理解 ◆発言・行動の観察，記述の確認（ノート） ※分からない語句はあらかじめ調べてくるよう指示する。
第2次（2時間）	②ワークシートを基に，グループで東西の文化について話し合う。  ③各自で本文の論構成を参考にして作文する。 ④作品をクラスで回し読みして批評し合う。	②4人1組のグループで話し合いをさせる。 ・本文のように対比できる東西文化の具体例を挙げさせる。 ・文化の違いが生じる理由について考えさせる。 ③根拠を明確にして，論理的に意見を述べるよう促す。	◇関心・意欲・態度 ◆発言・行動の観察，記述の確認（ワークシート） ※衣食住，身近な例から考えさせる。  ◇書く能力 ◆記述の分析（作文） ※ワークシートの構成案を基に作文するよう促す。

## 4 学習活動の実際

結論を導く道筋を示すためワークシートを用意し，また，スムーズに作文できることを期待して段落構成のモデルを提示した。しかし生徒の作品は，東西の文化の比較をするだけの主張のないものが多く，更には考察の根拠が主観に基づいた文章が目立った。また，生徒の多くは，具体例から抽象的な言葉を用いた主張へと展開させていくことができなかった。

### (1) 身に付けさせたい力の実現状況

以下の表は，1クラス40人の作文を，ルーブリックに基づいて評価した結果である。

A評価	B評価	C評価
20.0%	60.0%	20.0%

## (2) 生徒の作品例

生徒A：「気候条件」という客観的な根拠を示して比較している。しかし、結論が「気候条件の違いが文化の違いとして現れる」という主張から外れてしまった。

日本には敷き布団がある。その特徴は寝床が地面から離れていないことだ。  
それに対して西洋にはベッドがある。その特徴は寝床が地面から離れていることだ。地面から離れていない寝床と地面から離れている寝床。  
この違いはなぜ生まれるのだろうか。まず、日本では土足で部屋に入らない。こうなったのには、日本の気候条件に原因があるようだ。湿気や雨が多く、木造建築が主流だった日本では、湿った履き物を脱がなければ建物を傷めてしまう。これに対して西洋は空気が乾燥していて、畳などもなく、床に直接座る文化もなかったため、床の衛生状態や保全状態を気にすることがなかったであろう。  
寝床が地面から離れていない敷き布団の文化は日本の衛生状態のよさを体現している最も身近な例だと私は思う。

生徒B：室内での靴の脱着の習慣の違い、畳を使う文化と椅子を使う文化の違いを取り上げて比較しようとしているが、その違いが何に起因するのか分析せずに、「きれい好きかどうか」という主観的な判断のみで、違いを説明しようとしている。

日本には靴を脱ぐ習慣がある。西洋には靴を脱がない習慣がある。  
日本は畳や座ぶとんを使う習慣があるので、靴を脱ぐことが必要だった。更に日本人はとてもきれい好きなので靴を履いたまま家に入ったりしなかった。これに対して西洋には椅子があった。椅子は靴をはいたまま座れるので、西洋の人たちは靴を脱がなかった。また日本人ほどきれい好きではなかったのだと思う。……

生徒C：床に布団を敷く文化とベッドを使う文化の違いを、室内での靴の脱着の習慣の違いにより説明しているが、室内で靴を履くか脱ぐかの差が、なぜ生まれたのかについては言及しておらず、文化の違いが生まれた要因の分析としては、根拠に乏しい。

日本には布団がある。床に直接敷き、その上に横になるのがその寝方である。それに対して西洋ではベッドがある。床に直接敷かず、木やパイプの土台があり、その上にマットレスをのせて寝る。  
布団とベッド。この違いはなぜ生まれるのだろうか。それは、家の中で靴を履くか履かないかによると思う。(中略) 家の中で靴を脱いで生活をする日本の場合、直接床に布団を敷いても不快に思うことはないけれど、西洋の場合、泥の付いた靴で踏んだ床に直接布団を敷いて寝るのは不快だと思う。自分は、靴により布団とベッドの違いが生まれたと思う。

## 5 おわりに

本実践では、本文から対比構造を理解し、それを基に論理的な文章を書くことをねらいとした。しかし、生徒の作品の多くは主観的で説得力に欠ける文章であった。客観的で正当な根拠を挙げることができないためである。生徒に根拠を示すようにと促すと、「日本は地味で西洋は派手」というような感覚的な記述が多く現れた。まず、「気候」「風土」「地理」といったキーワードを与えるなどして、客観的な根拠とはそもそもどのようなものなのか、例示をすることが必要だったかもしれない。その上で、根拠の妥当性を検証させる指導が足りなかった。1年生の生徒たちは、文化論を述べるには、知識が不十分であった。資料を集める必要があり、それを分析して根拠となり得るかどうか検証する活動をさせるべきだった。その活動こそが論理的に思考する経験となるのである。

そこで、改善案として次のようなことを考えた。まず、本文の読解をさせた第1次の終わりで、次時からグループで自分たちなりの東西文化論を書くための活動をしていくことを予告し、そのためのテーマ決めと資料集めをするよう指示を出す。第2次では、グループで東西文化の違いが生じる理由について推論を立てて、集めてきた資料をもとに検証させる。さらに、いくつかの資料のうちどれが論拠となり得るかも分析させたい。本実践ではこの指導が足りていなかったことが、実際に授業してみて分かった。

また、テーマの妥当性についてであるが、生徒が日本の文化について十分に知識をもたないがゆえに、グループの話合いは、意欲はあっても深化しないという状況があった。生徒自身のことなど身近で書きやすいテーマ設定もできたであろう。しかし、対立構造の論理的な文章を書くというねらいの授業においては、先述のように客観的な根拠を示すことが重要である。自らに近いテーマであればあるほど主観が出てきてしまうことを考えると、東西文化のようなテーマは適当であるように思う。

今回の授業では、先に述べた検証の指導の不十分さに加え、現状の作品を分析して、よりよくするために作品を批評し合う活動に重点を置くなどの書いた後の指導も足りなかった。その際には、事実と推測を明らかにして矛盾点を批判し合う、主張と根拠の整合性を見る、というような観点を示すことも必要であろう。

今回の実践を生かして、今後もさまざまな言語活動を通して論理的に思考する経験を、生徒にさせることができるよう、努めていきたいと思う。

「水の東西」ワークシート

班員

☆ 例に倣って、東の文化と西の文化の具体例をいくつか挙げてみよう

例 東 鹿おどし	←	流れる水	例 西 噴水	←	噴き上げる水
① 東	←		西	←	
② 東	←		西	←	
③ 東	←		西	←	

☆ 右から一つ選んで、なぜその違いが生じるのか考えよう

☆ 自分なりの「東西比較文化論」を書いてみよう（次のような構成で書くといい）

- 第一段落 日本には……がある。その特徴は……。
- 第二段落 それに対して西洋には……。その特徴は……。
- 第三段落 ……と……。

この違いはなぜ生まれるのだろうか。……

or

以上のことから東西の文化についてまとめると……

※改訂版

## 「水の東西」ワークシート

班員

1 東の文化と西の文化の具体例を挙げよう

東

西

2 なぜその違いが生じるのか考えよう

3 2で考えた推論を確かめるためにどのようなデータが必要か、考えよう

4 データを集めよう（宿題！）

5 集めたデータを基に、主張する内容を考えよう

6 自分なりの「東西比較文化論」を書いてみよう